

# 修 道

輝ける133年のあゆみ

京 都 市 教 育 委 員 会

18032013

第10巻



255907150

年 度		学 校 の 歴 史	参 考
昭和18	1943	・ 4月 京都市の出した「国民学校・青年学校整理統合案」により，昭和14年に修道小学校に併設されていた修道商業青年学校は一橋商業青年学校に合併 昭和16年より併設されていた修道実務女学校は弥栄実務女学校に合併となる	
19	1944	・ 京都府の指示により副食のみの学校給食実施	
20	1945	・ 1月16日 午後11時20分空襲により学校の隣接地に爆弾が投下され校舎・民家が被爆 児童9名死亡 ・ 3月31日 戦局悪化のため北桑田郡平屋村（現美山町平屋）へ3年から6年までの児童128名学童集団疎開 同年10月16日帰校	
21	1946		・ 「日本国憲法」公布
22	1947	・ 1月 脱脂ミルクを中心とした学校給食開始 ・ 4月1日 京都市立修道小学校と改称	・ 「教育基本法」「学校教育法」公布 義務教育は小学校6年，中学校3年の9年に延長される
23	1948	・ 修道育友会発会	
24	1949	・ 11月11日 創立八十周年記念祝賀式挙行	
26	1951	・ 修道小学校交通自治班，京都市公安委員会より表彰を受ける	
28	1953	・ 青少年赤十字活動始まる	
32	1957	・ 給食調理室竣工	
36	1961	・ こども銀行創始十年に当たり修道こども銀行表彰を受ける	
40	1965	・ 8月5日 プール竣工	
42	1966	・ 3月2日 支部研究センター校として「造形活動の内面化をめざして」第三次研究集会開催	

## ケ 空襲－馬町周辺

太平洋戦争が激しくなり、日本本土は空襲を受ける気配が濃厚となった。そのため防火訓練が実施され、きびしい灯火管制がしかれたが、昭和19年6月、九州は初めて空襲を受けた。そして、次第に関東、関西へと空襲の規模は広がっていった。

翌年の昭和20年1月、京都市内で初めて、東山区の馬町周辺に爆弾が投下された。

「修道校創立百周年記念誌」には、次のように記されている。

昭和20年1月16日午後11時20分の空襲により、学校の隣接地に爆弾が投下され、校舎東北隅の民家に火災が発生した。

類焼がまぬがれたが、講堂・北校舎（東から階上階下とも3教室）・東教室（階上3教室）の窓ガラスは全部、爆風のために飛散し、講堂の屋根は破れて見る影もない有様となった。

その他、柱が爆風のために破損したものも多く、特にこの空襲によって本校児童9名の尊い生命が失われた。このことは修道校百年の歴史の中でもっとも悲惨なできごとであった。ここに謹んでご冥福をお祈りしたいと思う。

校舎の復旧は京都市営繕課の手により、昭和21年2月に工事を終了した。

京都市では空襲はなかったといわれるが、馬町周辺への空襲以後、「京都空襲」<sup>(注1)</sup>によれば、京都市内では終戦までに6回、空襲があったとのことである。なかでも昭和20年6月26日の西陣地区の空襲はもっとも大きく、「出水校百年史」には「校下の下長者町通智恵光院付近に爆弾数個が投下され死傷者多数を出し民家の倒壊等被害甚大。幸いにも学校は3階の窓ガラス数枚程度の軽微な損害だったが、学校の講堂は負傷者の収容所となり…」と記されている。戦時とはいえ、このような「悲惨なできごと」があったことは長く記憶にとどめるべきことであろう。

(注1) 久津間保治著「京都空襲」(かもがわ出版 1996)